

## リスク管理の基本方針

当金庫は、経営の健全性を維持し適正な収益を確保するため、リスク管理を経営の最重要課題の一つとして位置づけ、(統合的)「リスク管理の基本方針」を定めております。

(統合的)「リスク管理の基本方針」では、「内部統制システム基本方針」に則り、当金庫全体のリスクを一元的に管理し、リスクカテゴリーごとに管理を行うなど、統合的なリスク管理体制の確立に努めております。

## 統合的リスク管理に関する考え方

統合的リスク管理とは、当金庫が直面するリスクに関して、リスク・カテゴリー(信用リスク、市場リスク、流動性リスク、オペレーショナル・リスク)ごとに評価したリスクを総合的に捉え、経営体力(自己資本)と比較・対照し、管理を行うことをいいます。

当金庫では、各種リスクを金庫が定める個別の方法で質的又は量的に評価した上で、全体のリスクの程度を判断し、業務の健全性および適切性を確保するため、全体のリスクを統合的に管理する体制整備を行い、実効性の確保できる組織体制の整備・確立に努めております。また、リスク管理を効果的に実践するため、ALM委員会等を通じて情報の共有化を図るなどして、その管理体制の整備・強化に努めております。

当金庫が管理する主要なリスクの種類については、信用リスク、市場リスク、流動性リスク、オペレーショナル・リスクのカテゴリーに分類し、金庫の方針に基づき各リスクの管理方針を定めております。また、リスクの管理統括部署を法務部とし、各リスクの管理部署と連携を行い、統合的リスク管理体制の整備・確立に努めております。

なお、管理するリスクについては次のように定義するほか、各リスクの管理方針を策定し、統合的なリスク管理体制の強化・充実に努めております。

リスク・カテゴリー (管理部署)	リスクの定義と管理状況
信用リスク (審査部)	<p>信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化等により、資産(オフ・バランス資産を含む)の価値が減少ないし消失し、当金庫が被るリスクをいいます。</p> <p>当金庫では、「信用リスクの管理方針」に則り、信用リスクを計量化し、理事会で設定された限度額にもとづき、信用リスクを管理しております。また、資金使途別および業種別等に区分した与信ポートフォリオの管理を行っております。資産の自己査定および償却額・引当額の算出に関する業務についてはその妥当性の検証を行うなど、適切な管理に努めております。</p>
市場リスク (経営企画部)	<p>市場リスクとは、金利、有価証券等の価格、為替等の様々な市場のリスク・ファクターの変動により、資産・負債の価値が変動し損失を被るリスク、資産・負債から生み出される収益が変動し損失を被るリスクをいいます。適切な市場業務の運営を行うため、金利リスク、価格変動リスクなどの市場リスクを適切にコントロールすることにより、健全性の確保および収益力の向上に努めております。</p> <p>当金庫では市場部署、事務処理部署、市場リスク管理部署を組織的に分離し、相互牽制の働く体制としているほか、ALM委員会において、リスクの状況に関する分析・検討を行い、必要に応じて理事会へ付議・報告を行うなど、より充実した市場リスク管理体制の整備・確立に向け、取り組んでおります。</p>
流動性リスク (経営企画部)	<p>流動性リスクは、「資金繰りリスク」および「市場流動性リスク」の2つのリスクからなります。</p> <p>「資金繰りリスク」とは、運用と調達の間隔のミスマッチや予期せぬ資金の流出により、必要な資金確保が困難になる、または通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスクをいいます。「市場流動性リスク」とは、市場の混乱等により市場において取引ができないなど、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失を被るリスクをいいます。</p> <p>当金庫では、市場流動性の状況について適切に把握し対応するとともに、資金調達・運用状況に即した適切かつ安定的な資金繰りに努めております。</p>
オペレーショナル・リスク (事務部、法務部 総務部、業務部)	<p>オペレーショナル・リスクとは、業務プロセス、役職員の活動、システムが不適切であることもしくは機能しないこと、または外生的な事象により損失を被るリスクをいいます。</p> <p>業務・商品・サービスの多様化、業務処理のシステム化など金融環境は大きく変化していることから、当金庫では、業務遂行にあたって存在するオペレーショナル・リスク(事務リスク、システムリスク、法務リスク、人的リスク、有形資産リスク、風評リスク)を極小化するため、業務処理の統制・指導を行うなどして、リスク管理の体制整備に努めております。</p>